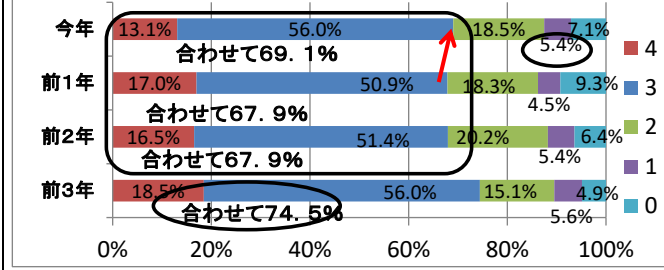
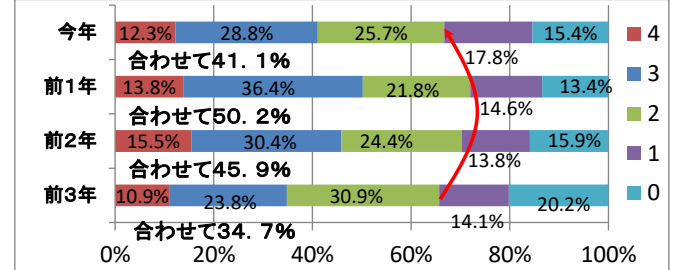


＜項目1＞ ●先生方は分かりやすい授業になるように工夫している



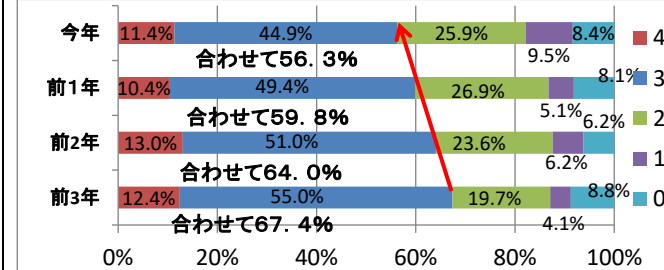
「④+③」の割合が生徒肯定感を表していると考えたと今年(69.1%)←前1年(67.9%)←前2年(67.9%)とほぼ安定。約7割の肯定感。ただ、3年前の74.5%からすれば、ここ数年は5%~6%ほど落としている。加えて「①思わない」が今年5.4%(29名)。分かりやすい授業は経営の根幹である。

＜項目6＞ ×朝の10分読書の影響で朝の集中力がアップしていると感じる



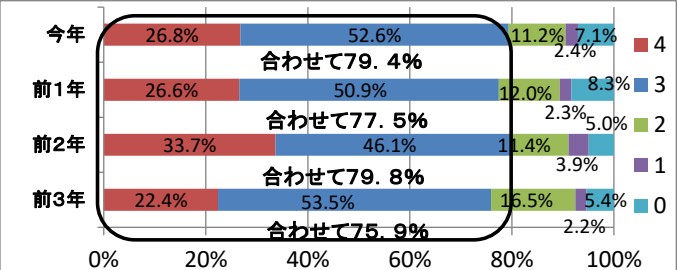
「④+③」の肯定感をみると前3年間でせっかく上昇して来た肯定感が、今年は減に転じた。コロナ等、今年の特異な状況が影響しているのか、それとも学年教師団の姿勢に緩みでも出たのか、各学年での点検が必要である。やる以上は充実させる。

＜項目2＞ ×意欲的に授業に取り組めるような環境作りが出来ていると思う



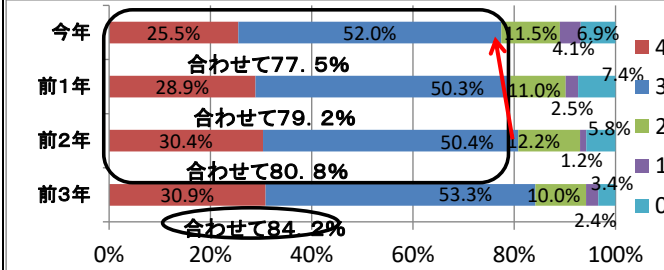
「④+③」の肯定感がこの4年間、ジリジリと減少している。「学習環境作り」は我々教師の責任。それが、明らかに低下傾向である。居眠りあり、騒がしい授業、質問もできない、えこひいき…これは昨年の授業評価から聞こえてきた生徒意見。授業内容の真剣な点検が必要。生徒満足度を上げるために。

＜項目8＞ ●学校は健康で安全な学校生活に配慮していると思う



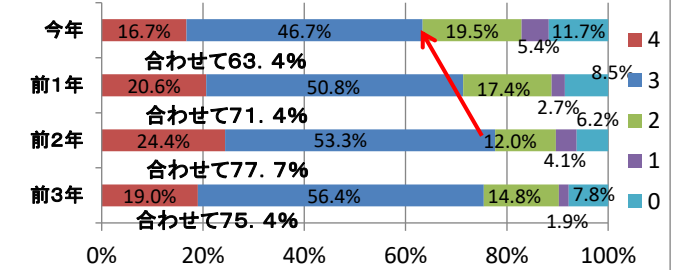
約8割の高い肯定感が毎年維持されている。特に今年度は「コロナ」で生徒も職員も苦労した。保健部先生方の活躍と全先生の協力姿勢が生徒にも見えていたということである。感謝。

＜項目3＞ ▲学校は基礎学力の定着に力を入れていると思う



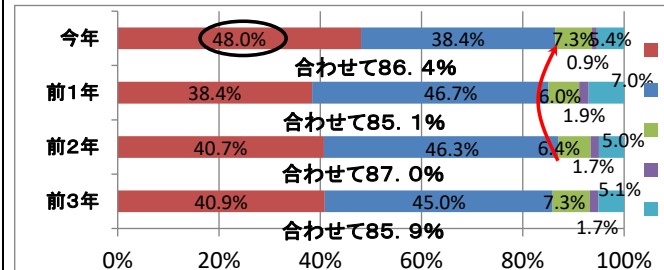
3年前の84.2%にはおよばないが、ここ3年間はほぼ8割の肯定感で推移している。日々のマナドリや放課後学習会が肯定されていると思われるが、この質問もジリジリと肯定感が減少しているのが気になる。特進もでき、上位を育てる・下位も丁寧に指導の両方に力を入れる必要がある。

＜項目9＞ ×先生方は基本的な生活習慣が身につくように丁寧に指導をしている



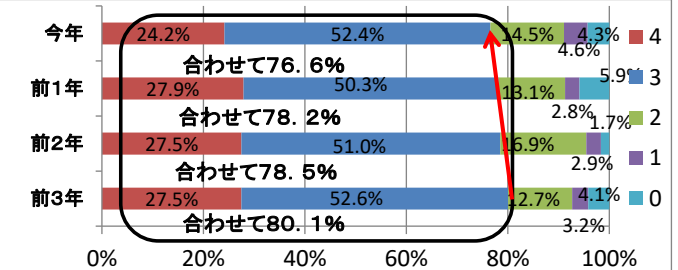
「④+③」の肯定感がこの3年間で減少。「2年前」と比較すれば-14.3%も。今年、残り24.9%(134名)は否定的。11.7%(63名)は分からないとの回答。否定的の意味を考えたい。我々の生活指導が「丁寧ではない」とは？折々の指導場面で、校則や「なぜこの指導が必要か」等のくだいた説明が必要かと。

＜項目4＞ ●本校の専門的な学習内容は充実していると思う



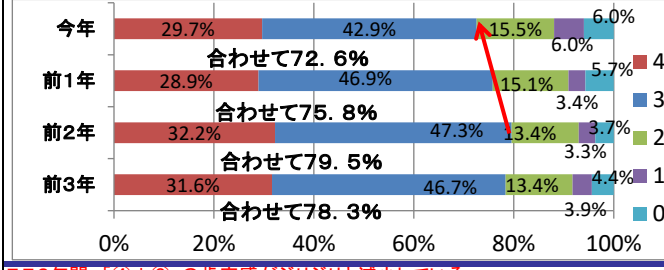
86%前後の肯定感が毎年安定して出ている。良好である。特に今年度は「そう思う」が48%と過去最大。これは、食物・ビジネス・看護などに関わる専門科目が、科の特色をうまく演出しているということ。今年度の教育スローガン「科の個性を際立たせる」が達成できているとも言える。

＜項目10＞ ▲生徒は頭髪・服装をきちんと整えていると思う



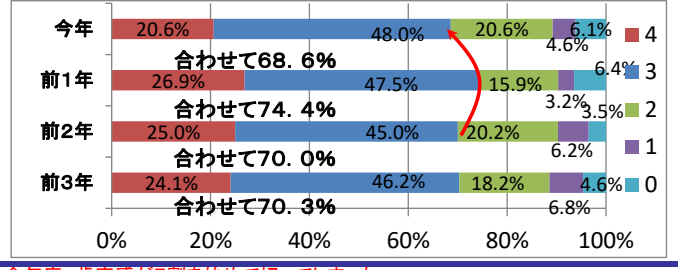
この4年間で肯定感が少しずつ減少している点は気になるが…8割弱を常に維持しているのは、先生方の日頃の指導が生きている証拠。感謝。今後は、「指導基準」を統一する等の目線合わせが、今一度必要なのかも知れない。加えて、その場での指導も。

＜項目5＞ ×資格取得や検定合格に対し、積極的に指導が行われていると思う



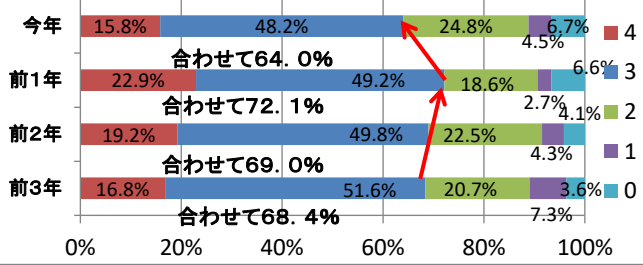
ここ3年間、「④+③」の肯定感がジリジリと減少している。この指導は、各科での「生徒モチベーション」維持にも大いに関わるものであるはず。昨年度末から始めているが、今後も、良くても悪くても結果はすべて公表してゆく。高い受験料である、説明責任が求められる。

＜項目11＞ ×気持ちの良い挨拶が飛び交う学校であると思う



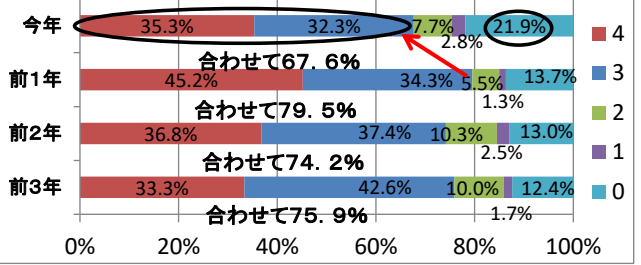
今年度、肯定感が7割を始めて切りました。ものごとの始まりをスムーズに、終わりをけじめあるものにするために…。反省の意味を込めて言えば、まずは我々教師側の「気持ちのよい挨拶」の励行だと思われる。生徒の手本になっているだろうか。

<項目12> × 細部まで心配りをして掃除が実施されていると思う



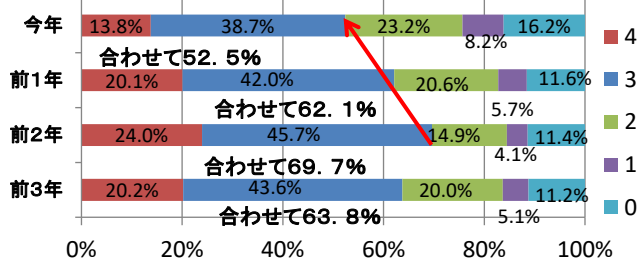
「④+③」肯定感は過去最低である。  
4月・5月のスタート時期での生活指導全般がコロナ休校のため抜けているのが影響しているのかも知れない。学校が荒れてくる・崩れてくる兆候はまずキタナイ校内状況に見られる。小さな乱れの内にも修正する。我々の姿勢にかかっている。

<項目17> × 先生方は部活動の推進と技術向上のための指導に積極面に取り組んでいる



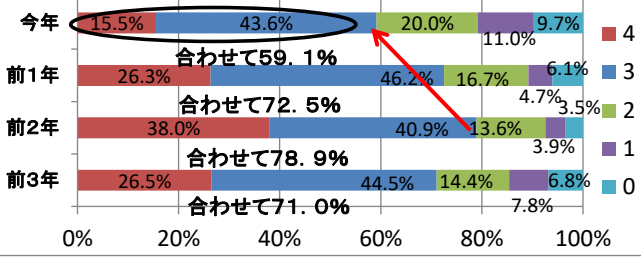
今年の低い肯定感「④+③」は、やはり特別だと思いたい。対前年-11.9%  
今年、試合・コンサート・県外遠征…などが軒並み中止に追い込まれた。生徒達は、諸事情をそれなりに理解してくれているものの、やはり「活動の推進」となると、厳しく評価したのだろう。①分からない117名の多さも目立つ(部活参加率)。

<項目13> × 先生方は生徒の悩みや相談に対して親身に対応していると感じる



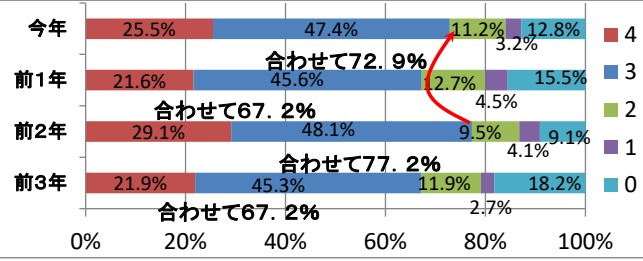
この項目は、生徒との信頼関係構築に関わる重要事項。今年、大きく下げている。今年の否定的意見31.4%(169名)、分からない16.2%(87名)の存在に注意したい。我々教員の気持ち(親身)が「うまく伝わっていない」ということか。対応はできているはず。生徒とのコミュニケーションを、更に丁寧に注意深くとる必要があるのかもしれない。

<項目18> × 学校行事は充実し、魅力的に計画されていると思う



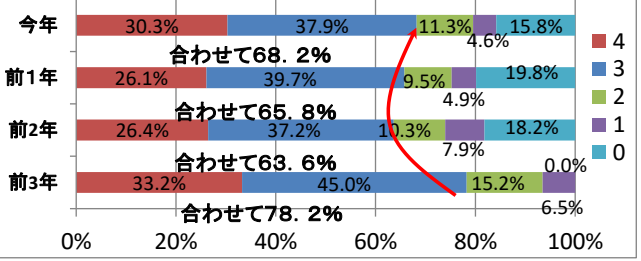
この項目でも言えるのは、やはり今年特別な状況なのだろう。対前年-13.4%  
保護者なしでの戴帽式や包丁授与式、文化祭の中止、修学旅行の変更や変則的な体育祭…など、厳しい状況下での実施であったが、確かに充実度は低いと言わざるを得ない。生徒からの厳しい評価である。来年度は挽回する。

<項目14> ● 先生方は生徒の進路指導に熱心に取り組んでいる



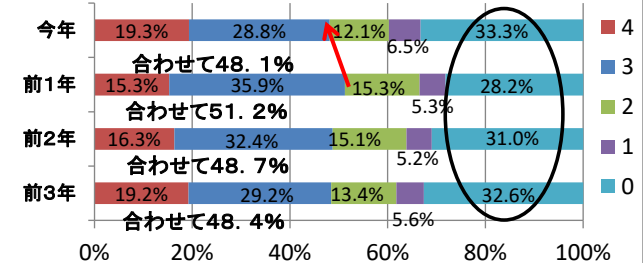
「④+③」の肯定感では、今年、盛り返している。対前年+5.7%  
種々のデータを分析しての生徒学力把握等が少しずつ定着してきた。当たり前のことだが、学力の高い生徒の存在・とても厳しい生徒の存在が明らかになって来ている。今後の細やかな対応が的確な進路指導につながる。ノウハウの習得を。

<項目19> ● 先生方は体罰やハラスメントに気を付けて指導をしていると感じる



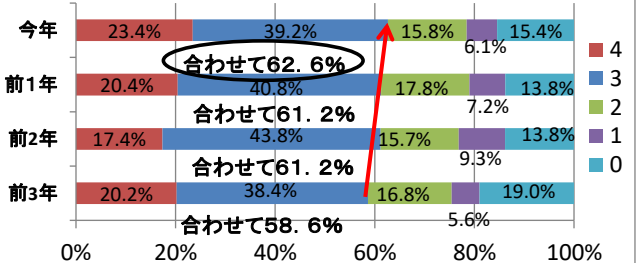
「④+③」肯定感では、この3年で確実に上昇。よい傾向である。  
メリハリを効かせた生徒指導、理由を丁寧に添える生徒指導、互いにマナーを意識した生徒指導…などなど、我々は常に心がけたい。

<項目15> × 進路指導室は利用しやすく、就職や進学のための情報を調べやすいと思う



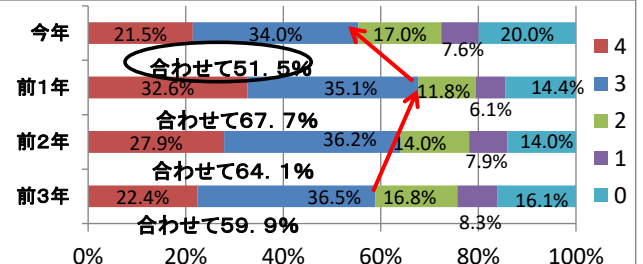
まず目につくのが、「①分からない」生徒の多さ。今年で33.3%(179名)である。  
図書館利用と同様に、進路室に足を運ばせる工夫が必要なのかも知れない。  
教室場面、集会場面など、折に触れて「進路指導」に関わる話題を生徒へ提供したい。どんな資料があるのか、どういう風に調べるのか、何が分かるのか…まず教師が知る。

<項目20> ● 学校はいじめのない環境づくりに努力していると思う



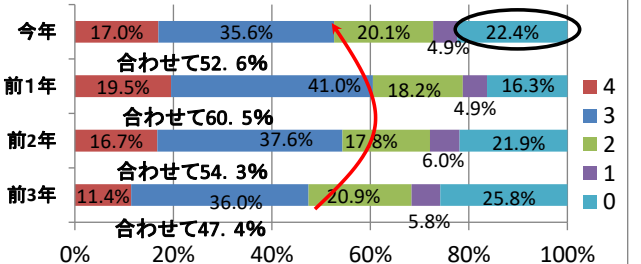
今回の学校評価アンケートでは、コロナ禍とはいえ、厳しい生徒評価が目立つ中  
この4年間では一番の結果である。安心安全な生活環境を整えることは学校経営上、最も重要な視点である。更に向上させてゆく。断固とした対応をとる姿勢である。

<項目16> × 先生方は勉強と部活動の両立に配慮している



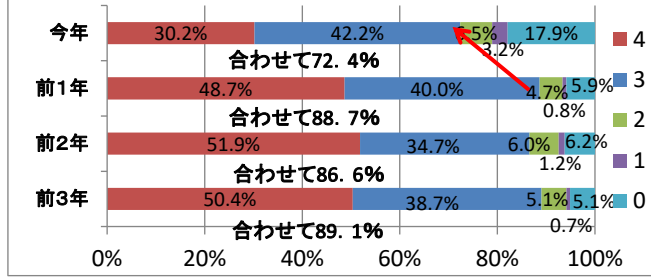
「④+③」で見れば、今年は過去最低となった。  
現場での苦勞をフォローすれば、今年のコロナ禍は試合等を中止に追い込み、校内での練習等にも焦りや落胆を残したはず。バランスを考える余裕も奪った気がする。更なる工夫が求められる。方向性は、「時短・縮小・効率化」へ向かう動きだろうか。

<項目21> × ボランティア活動は活発に行われていると思う



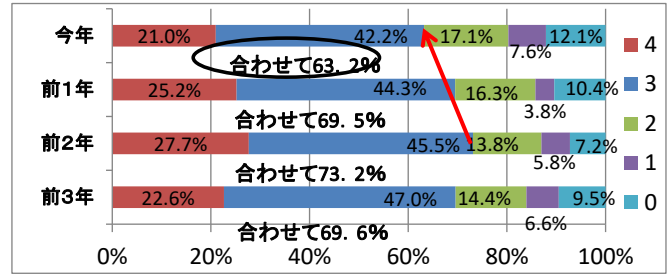
コロナ禍あり、7月豪雨ありの中、校外に出向いての奉仕活動にはやや無理があったことは否めない。それでも、校内での募金活動等、感染防止と平行しながら実施されていた事実はある。今年は、「生徒を感染から守る」ことに力を傾注した1年。次年度に挽回を図る。

<項目22> ×本校は国際理解教育(異文化理解)や国際交流に努めていると思う



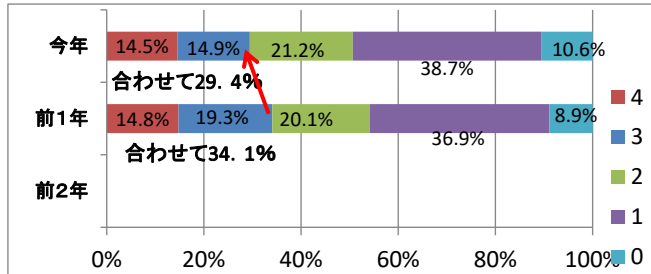
本校の大きな強みの一つがこの「国際交流」関係であるのだが、現下の状況では、米国にも、韓国にも、国内での移動すらままならない状況である。致し方ない肯定感の減少かと思われる。コロナ終息を願うばかりである。その後に活発化させる。

<項目26> ×学校は女子校らしい学校づくりに努めていると感じる



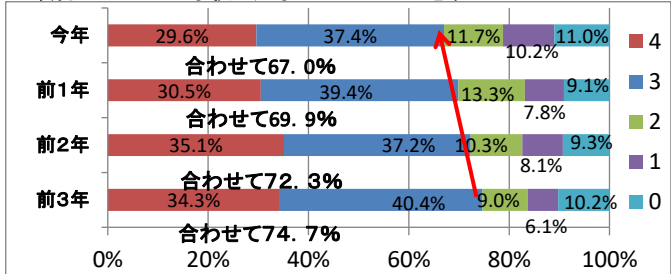
この3年間でジリジリと減少傾向が見える。施設設備、各学校行事、生活指導…、改めて「建学の精神」・女子教育の視点を職員全員で確認する必要があるように思われる。

<項目23> ×朝の読書や一日一詩などにふれることによって、図書館を利用した



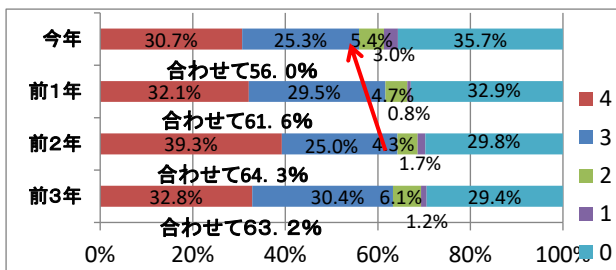
「学習ルーム」や「心を落ち着かせる場所」としての利用は一定数あるようであるが…一昨年度では年間一人4.6冊の読書、昨年度は一人4.2冊の読書である。ICT導入も今後重要になるが、本校では、まず「読み・書き・計算」ではなからうか。読書・新聞などに多く触れさせたい。

<項目27> ×この学校に入学してよかったと思う



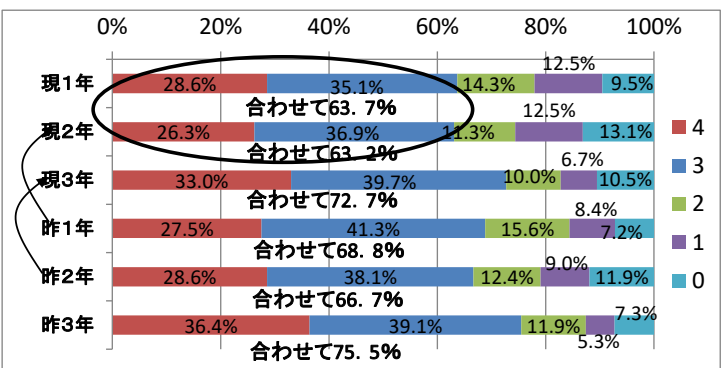
この4年間、生徒肯定感「④+③」が減少傾向をみせている。これは、学校への信頼感や満足度に影響する。保護者満足度・生徒満足度は特に私学では重要な視点。私達は、今一度、様々な場面での「自分の責任」を点検したい。満足度を上げるものになっているか、説明責任を果たしているか。

<項目24> ×スクールバスは安心・安全に運営されていると思う



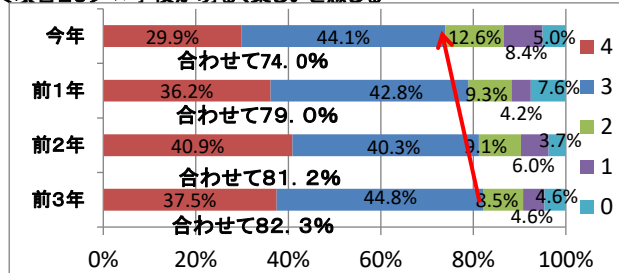
昨年度は事故等もあり反省したところであるが、今年の低下は何を意味するのか。例えば、折々の運転スピードや追い越し時の操作…などなど、点検する必要があるのかも知れない。

<学年別集計> ×この学校に入学して良かったと思う



現3年生(昨2年生)は肯定感を66.7%⇒72.7%と伸ばしているが +6% 現2年生(昨1年生)は肯定感を68.8%⇒63.2%と下げている。-5.6% この2年生に加え、現1年生の肯定感も63.7%とやや低い状況である。特に現1年生については、4月の「新入生導入指導」がほとんどできなかったことが大きく影響しているように思われる。生徒・保護者の満足度をいかにして引き上げるか、どう説明責任を果たすのか…我々職員全員で考えるべき課題である。

<項目25> ×学校が明るく楽しいと感じる



この4年間でジリジリと肯定感「④+③」が減少している。コロナ禍の中では、常に感染リスクとの闘いであり、まずは、生徒の安心・安全を最優先に学校経営を継続してきた負の結果なのかも知れない。日々、手洗い・マスク・密回避等の注意徹底が最優先課題であった。次年度挽回する。